

第44回近畿学校図書館研究大会(第2日目)
特別講演Ⅱ

**「デジタル・ネットワーク社会と学校図書館—
電子資料と読書空間の視点から」**

2015年8月7日(金)11:20~12:40

大阪・御堂会館

湯浅 俊彦

(立命館大学文学部教授)

自己紹介

- * 日本出版学会、理事。
- * 日本ペンクラブ・言論表現委員会、副委員長。
- * 日本図書館協会・出版流通委員会委員。
- * 2008年4月～2009年3月、国立国会図書館「電子書籍調査研究委員会」委員。
- * 2009年6月～2015年5月、国立国会図書館・納本制度審議会委員。
- * 2010年～図書館振興財団「図書館を使った調べる学習コンクール」審査委員

【著書（単著）】

- 『デジタル時代の出版メディア』（ポット出版、2000年8月）
- 『デジタル時代の出版メディア 電子・ドットブック版』
—（ボイジャー、2000年10月）
- 『電子出版学入門—出版コンテンツのデジタル化と紙の本のゆくえ』（出版メディアパル、2009年、改訂2版2010年9月刊、改訂3版2013年3月刊）ほか

【著書（共著）】

- * 『デジタル環境下における出版ビジネスと図書館—ドキュメント「立命館大学文学部湯浅ゼミ」』（出版メディアパル、2014年4月）
- * 『電子出版と電子図書館の最前線を創り出す—立命館大学文学部湯浅ゼミの挑戦』（出版メディアパル、2015年3月）
- * 『デジタル・アーカイブとは何か—理論と実践』（勉誠出版、2015年6月）
- * ほか。

本日のテーマ

デジタル・ネットワーク社会と学校図書館

- *1. 最近の教育事情
- *2. 学校図書館の役割と電子資料
- *3. 「読書」と「読書空間」の変容
- *4. デジタル・ネットワーク社会と学校図書館



*1.最近の

教育事情

デジタル教科書導入政策 （「知的財産推進計画2012」）

- * 教育の情報化の推進
- * **児童生徒1人1台の情報端末**によるデジタル教材の活用を始めとする教育の情報化の本格展開を目指して、義務教育段階における実証研究を進めるとともに、実証研究などの状況を踏まえつつ、**デジタル教科書・教材**の位置付け及びこれらに関連する教科書検定制度といった教科書に関する制度の在り方と併せて著作権制度上の課題を検討する。（短期・中期）（文部科学省、総務省）

安倍内閣「日本再興戦略

-JAPAN is BACK-」(2013年6月14日)

- * ○IT を活用した21 世紀型スキルの修得
- * •2010 年代中に1人1台の情報端末による教育の本格展開に向けた方策を整理し、推進するとともに、デジタル教材の開発や教員の指導力の向上に関する取組を進め、双方向型の教育やグローバルな遠隔教育など、新しい学びへの授業革新を推進する。(p.46)
- * http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/saikou_jpn.pdf

「知的財産推進計画2015」 p.42 (教育の情報化の推進)

- *・デジタル化した教材の円滑な利活用やオンデマンド講座等のインターネットを活用した教育における著作権制度上の課題について検討し、必要な措置を講ずる。(短期・中期) (文部科学省)

「知的財産推進計画2015」

p.42 (教育の情報化の推進)

- * ・デジタル教科書・教材の位置付け及びこれらに関連する教科書検定制度の在り方について、2016年度までに導入に向けた検討を行い結論を得て、必要な措置を講ずる。当該検討を踏まえつつ、関連する著作権制度等の在り方についても併せて検討を行い、速やかに結論を得る。
(短期・中期) (文部科学省)

「知的財産推進計画2015」

p.42 (教育の情報化の推進)

- * • 教育現場においてICTを利用するに当たり、学校間、学校・家庭が連携した新たな学びを推進するための指導方法の開発、端末やシステムの設置にかかるコスト、教材・学習履歴の保存・保護・活用の在り方等の課題の解決に資するため、クラウド技術等を活用した実証実験を引き続き実施する。(短期・中期) (文部科学省、総務省)

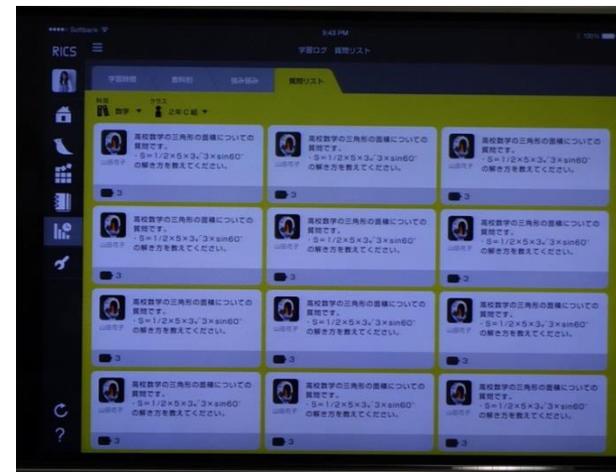
立命館小学校

- * 2013年11月から4・5年生(240人)にマイクロソフト「サーフェスRT」を導入(生徒の購入)。
- * すでに2012年度はWindows のタブレット型PC やiPad を学校が貸与し、これらのデバイスは4・5年生以外の学年で今でも使用。
- * 「新しい情報を創りだす人材」を育成することが目標。
- * 情報を読覧するだけではなく、情報を自ら加工・編集・発信できる人材の育成。



立命館守山中学校・高等学校

- * 2014年5月15日、電通国際情報サービス(ISID)オープンイノベーション研究所と「アダプティブラーニング(適応学習)」を実践、検証するプロジェクトを発表。
- * 生徒はiPadを使って学校内や家庭などから、画面に表示された問題の中から選択して学習、教材は数研出版が提供する。
- * 対象科目は英語と数学。
- * 対象とする学年は、初年度で
中学1年(159人)と高校1年(304人)。
次年度以降、各年度の新入生に
1人1台導入する。



立命館宇治中学校・高等学校

- * 2013年2月、楽天がkoboを中学校、高等学校全校生徒に1600台寄贈
- * 広範な読書を通じて豊富な知識と語彙を身につけ、多面的なものを見方ができる人材育成を目的に読書教育を展開し、毎朝、全校一斉に「朝の読書」に取り組み、中学校では3年間で100冊(2万ページ)を各自の達成目標。
- * 2013年4月、「kobo Touch」を全生徒対象に1名につき1台を配布し、「朝の読書」に活用→ただし、「青空文庫」以外の有料電子書籍の課題が顕在化。
- * また、今後は、国語や英語の授業でも利用することも検討。
- * 一方、2014年4月からは高校2年生授業にマイクロソフト「サーフェス」導入。

電子書籍普及と読書アクセシビリティ

- * 視覚障害者にとって「紙の本」は「本」ではない。
- * 1. 点字図書の数も種類も一般図書にははるか及ばない。
- * 2. 紙の本断裁⇒スキャニング⇒画像からテキストデータ化→音声読み上げ
- * 3. 紙の本の製版データ⇒テキストデータ化→音声読み上げ
- * 4. 電子書籍によるアクセシビリティの実現へ
- * さらに「視覚障害者」から「読書困難者」へ

立命館大学

視覚障害学生のためのテキストデータ化

- * 2010年1月1日、改正著作権法施行。
- * 図書館資料のテキストデータ提供サービス開始。
- * 貸出件数10件、貸出期間100日、申請可能件数1度に3件まで。
- * 2013年4月～2013年9月、テキスト化件数8件、処理ページ数2,447ページ、提供までの日数64日、利用人数3名。

電子書籍に期待する視覚障害者

- * 視覚障害を有する人たちはこれまで図書館における対面朗読サービスや、DAISYを利用していたが、電子書籍による音声読み上げサービスに大きな期待を寄せている。
- * ところが、電子書籍サービスを行っている公立図書館は、およそ全国3200館のうちわずか35館程度と全体のほぼ1%であり、音声読み上げ対応もほとんどできていない。
- * 「芥川賞」「直木賞」受賞作も、DAISYで読むことができるのは半年先！

障害者差別解消法の成立

- * 2013年6月、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(通称:障害者差別解消法)が成立し、公布。(施行は2016年4月1日)
- * この法律の目的は、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本的な事項、**行政機関等及び事業者における障害を理由とする差別を解消するための措置等を定めること**により、障害を理由とする差別の解消を推進し、もって全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資すること」(第1条)にある。

行政機関等の「合理的配慮」

- * (行政機関等における障害を理由とする差別の禁止)
- * 第七条 行政機関等は、その事務又は事業を行うに当たり、障害を理由として障害者でない者と不当な差別的取扱いをすることにより、障害者の権利利益を侵害してはならない。
- * 2 行政機関等は、その事務又は事業を行うに当たり、**障害者から現に社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合**において、その実施に伴う負担が過重でないときは、障害者の権利利益を侵害することとならないよう、当該障害者の性別、年齢及び障害の状態に応じて、社会的障壁の除去の実施について**必要かつ合理的な配慮をしなければならない。**

情報へのアクセシビリティ

三田市立図書館読書アクセシビリティ実証実験

- * 立命館大学、大日本印刷、図書館流通センター、日本ユニシスの4者が「三田市立図書館読書アクセシビリティ実証実験」を2015年2月にスタート。
- * ベストプラクティスを提示することによって、多くの公立図書館の意識変革を促し、公立図書館における読書アクセシビリティを確保するために取り組んでいるプロジェクト。
- * 「音声で本検索『電子図書館』 障害者に対応、三田で実験」(『神戸新聞』2015年3月6日付夕刊記事)
- * <https://www.kobe-np.co.jp/news/shakai/201503/0007794821.shtml>

電子書籍を活用した 大学ゼミ教育の高度化

- * 2013年4月、立命館大学独自に行っている「教育の質向上予算」に「電子書籍を活用した大学ゼミ教育の高度化」が採択→テーマリサーチ型ゼミナール「デジタル環境下における出版ビジネスと図書館」(湯浅ゼミ)
→iPad配布して、京セラコミュニケーションシステムのプラットフォーム「BookLooper」上でテキストを利用
- * ゼミでの実践例から初年次教育における電子書籍の活用へ、そして全学的な取組へと発展させ、図書館における電子書籍の位置づけを明確化し、次世代型の教学展開を目指す。

アクティブ・ラーニングへの転換

- * 日本の大学における学修環境充実と大学図書館を中心とする学術情報基盤の整備は現在、大きな転換点。
- * 「従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要」（2012年、中央教育審議会答申）

実際の学修で利用可能な 電子資料が必要

- * 紙媒体資料は冊数に限りがあり(シラバス指定図書で3冊まで)、一定の時期に特定の図書に利用が集中する傾向に⇒多くの学生が事前・事後の学修をすることが実際に出来ない！
- * ところが学生が授業や学習用に最も利用する学術書(和書)については、デジタル・コンテンツがほとんど生成されていない。

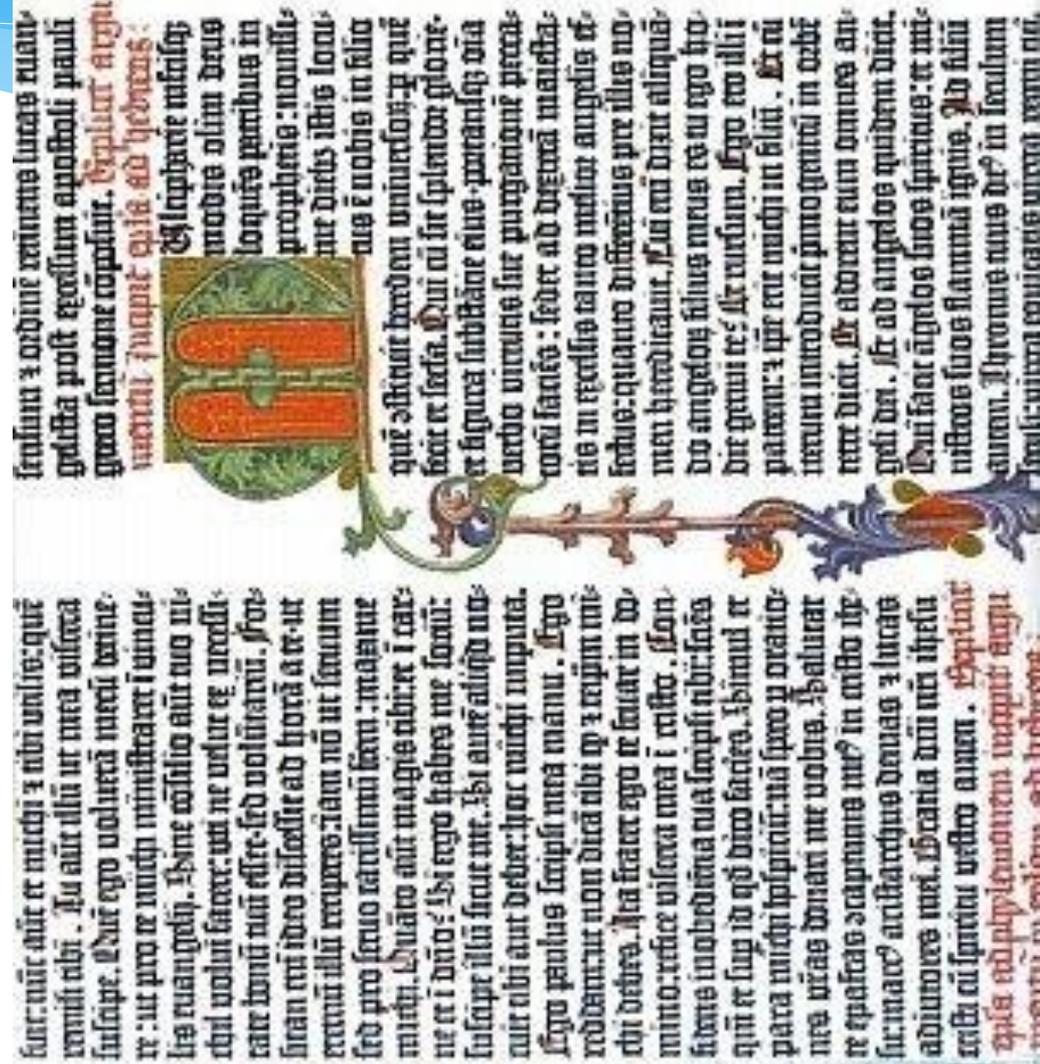
学生はいかにレポートを書くのか

- * 例えば、レポート課題として『ゲーテンベルクの銀河系—活字人間の形成』（みすず書房、1986年）のある章を指定して、論点を整理し、自らの意見を書くように指示。
- * 授業のシラバスに「参考書」としてこのタイトルを示したとしても、図書館ではシラバス指定図書は3冊購入。

ゲーテンベルクの銀河系

活字人間の形成

M. マクルーハン 森 常治訳 みすず書房



- * 『ゲーテンベルクの銀河系
—活字人間の形成』
- * マーシャル・マクルーハン 著
- * /森 常治訳
- * みすず書房
- * 1986年刊
- * 税込価格8,100円

大学で必要なタイトルの 電子化が遅れている

- * レポート課題が出された場合、一定時期に特定の図書の利用が集中し、多くの学生が実際に貸出を受けることができない。
- * レポートを書くために定価8100円のこの本を学生が購入することは実際にはまずありえないであろう。
- * 問題は学生が授業や学習用に最も利用する日本語タイトルの学術書について、ほとんど電子書籍化されていないこと。

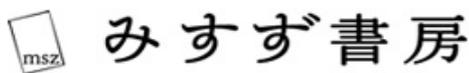
電子学術書実証実験の展開

- * 2013年10月～2014年3月、「日本の大学初、立命館大学を含む8大学による電子書籍の総合的実証実験の開始」→2013年4月の「湯浅ゼミ」から実証実験を全学展開へ。
- * 2014年4月～、実際に文学部で契約して湯浅ゼミで利用。
- * 2014年6月～、「学びの立命館モデル具体化委員会」で問題提起。

8大学共同実験後の商用サービスの動き

6出版社の新刊書が 2014年9月より電子で提供

- 慶應義塾大学出版会
- 勁草書房
- 東京大学出版会
- みすず書房
- 有斐閣
- 吉川弘文館



2014年9月より、過去1年間に出版された新刊書、毎月冊子で出版される新刊書を順次電子化し、電子図書館書籍として提供されます。

新たな学術出版流通へ

- * 『ゲーテンベルクの銀河系—活字人間の形成』を電子書籍化、通常は同時アクセス数が3だが、レポート課題にしたときは仮に2か月間、50人の学生が閲覧できる権利を購入する、といったことを出版社に提案したい。
- * 日本の学術出版流通がこれから変化する可能性。
- * 品切れになっては困るから「防衛」のために購入するのではなく、実際の利用するために積極的に出版社に働きかけ「攻め」の姿勢に、大学図書館を変えること。
- * 出版社の再生産活動を支えながら、利用者が資料を使えるシステムの最適化を考える。



*2. 学校図書館の 役割と電子資料

避けて通りたい「電子書籍」？

- *「避けては通れない問題ですから、本日は講師の方をお迎えし...」
- *2011年、学校図書館関係者に依頼されて電子書籍に関する講演したとき、司会の方はこのような言葉から始めた。

学校図書館

—教育課程への寄与はできているか—

- * 「学校図書館法 第2条」に「図書、視覚聴覚教育の資料その他学校教育に必要な資料（以下「図書館資料」という。）を収集し、整理し、及び保存し、これを児童又は生徒及び教員の利用に供することによって、学校の教育課程の展開に寄与する」という文言がある。
- * しかし、現在の学校図書館は教育課程の展開にどれほど寄与しているだろうか。

「図書館資料」 —所蔵から利用へ—

- * 「図書館資料」の概念は印刷資料や非印刷資料だけでなく、電子書籍などの電子資料、あるいはネットワーク情報資源に拡大し、必ずしも「所蔵」を前提とせず、外部サーバーへのアクセスという契約ベースの「利用」という大きな転換期を迎えつつある。
- * 図書館においてもデジタル教科書や教材の電子化に象徴される「電子出版時代」に対応する必要がある、学校の教育課程の展開に寄与することが重要なテーマに。

教材のデジタル化・ネットワーク化

- * 例：図書館流通センターの3つのデジタル事業
- * (1)「Educational Commons」(エド・コム)
- * (2)「TRC-ADEAC」(デジタルアーカイブシステム)→デジタルアーカイブを検索・閲覧するためのクラウド型プラットフォームシステム
- * (3)「TRC-DL」
(図書館流通センター・
デジタルライブラリー)



「紙」か「電子」かという二者択一ではない

- * 紙の本には「装丁や手触りなど質感によって記憶に残る」、また「行間を読むことや味わいながら読むことができる」という利点がある。
- * 一方、必要な情報を取り出し、その情報を利用し、次の創造につなげていくうえで電子書籍の持っている「本文の検索ができる」「最新の情報が入手できる」「文字情報だけでなく、音声、静止画、動画を収録できる」「引用や参考文献などにリンクすることができる」といった特性はきわめて便利である。
- * つまり「紙」か「電子」かという二者択一ではなく、使い分けることが必要なのである。

知識情報基盤の変化と読書の重要性

- * 電子書籍やデジタル教科書のような電子出版は新たな知識情報基盤を提供し、知の共同化に寄与することが期待される。その一方で、読書の重要性は変わることがない。情報量が多くなればなるほど、その情報をどのような文脈の中に位置づけるかということが必要だからである。
- * 「避けて通ることのできない問題」ではなく、より積極的に電子書籍やデジタル教科書を使いこなすことを考えたい。それが次世代の新たな文化創造につながっていくのである。

図書館を使った調べる学習コンクール

* 「図書館を使った調べる学習コンクール」審査

高校生の部

『食品サンプルは生き残れるのか～飲食店から消えていく食品サンプル～』

→自らの問題意識をもとに、図書館の文献とインタビュー等による調査を統合。

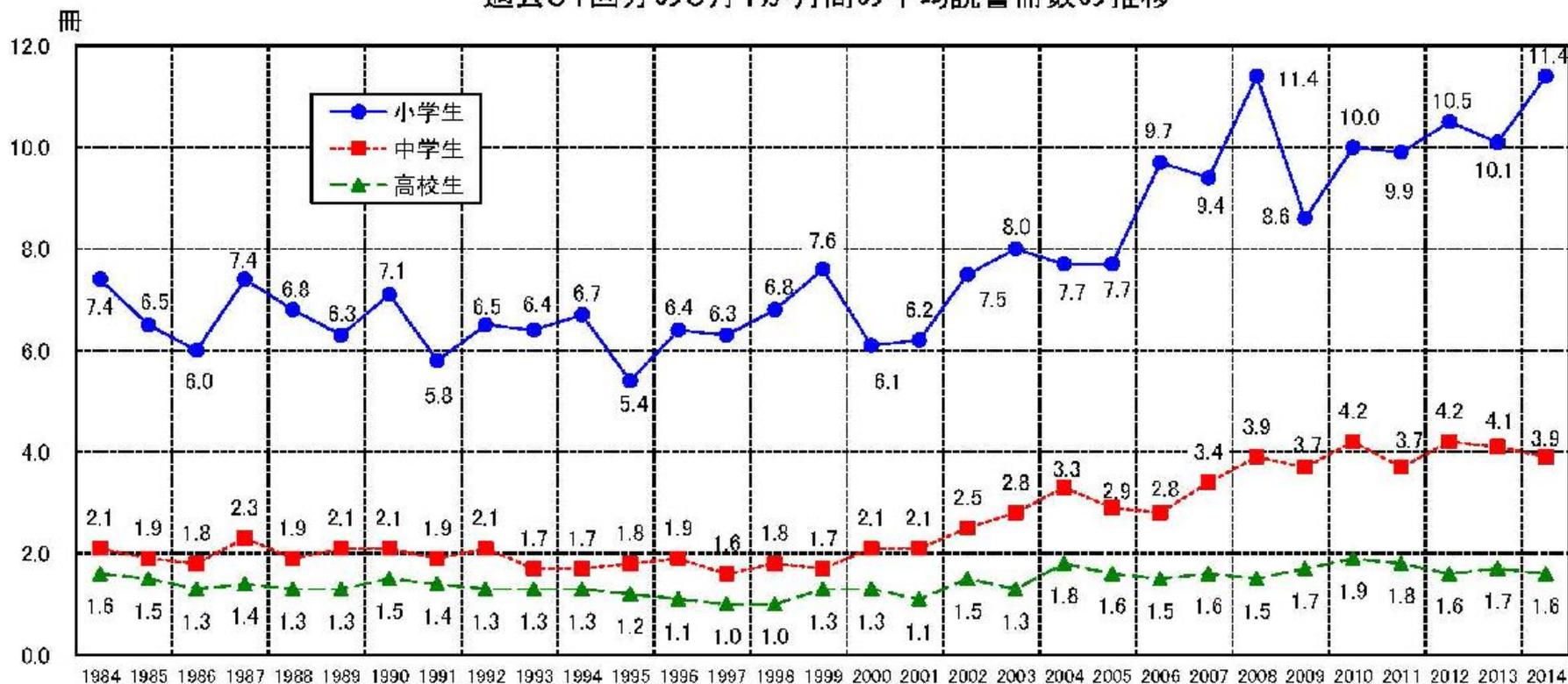
* 答えはひとつではないこと、問いを考えることの重要性。



*3.「読書」と
「読書空間」の
変容

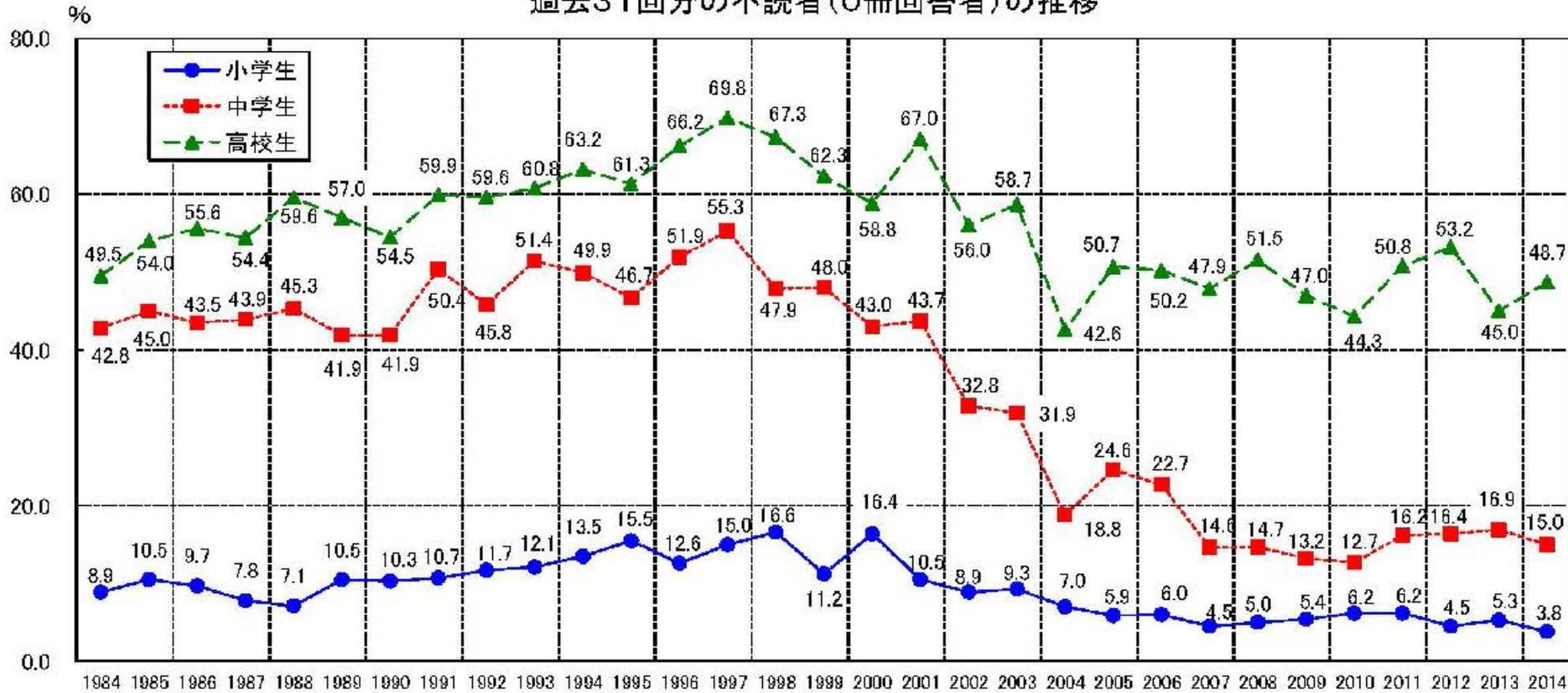
全国学校図書館協議会 第60回読書調査

過去31回分の5月1か月間の平均読書冊数の推移



「不読者」の推移

過去31回分の不読者(0冊回答者)の推移



*印刷資料だけを見
見ているだけでも青少年
のメディア接触状
況は分からない。

青少年の情報探索行動の変化

- * 「平成26年度青少年のインターネット利用環境実態調査(概要)」(内閣府、2014年11月～12月調査、2015年3月発行)[青少年＝満10歳～17歳]
- * 青少年の7割台後半が、いずれかのインターネット接続機器でインターネットを利用。
- * ○ インターネットを利用する機器は、スマートフォン(42.9%)、ノートパソコン(23.0%)、携帯ゲーム機(18.5%)、タブレット(12.6%)、デスクトップパソコン(11.0%)、携帯音楽プレイヤー(9.5%)が上位。
- * 「まずインターネットで検索」という情報探索行動が一般化→例：2012年2月26日、京都大学入試問題が「Yahoo！知恵袋」に投稿されたことが発覚。

子どもたちを取り巻く環境 通信教育タブレットの時代

- * 小学生向けタブレット比較
- * スマイルゼミ→1年以上の受講で自社開発の端末無料配布、教材配信。動画で問題解説。
- * Z会タブレット→2013年7月「高1講座」500人にタブレット無料提供。答案を内蔵カメラで撮影して提出すると、添削済みの答案や解説が返信される。
- * 進研ゼミ小学チャレンジ→2013年4月「中1講座」に独自端末導入(1年以上の受講で無料)。対象全体の6割の16万人がタブレット併用を選択。週1回の数学のライブ授業。(『朝日新聞』2014年2月5日付大阪本社版10版27面)

図書室からラーニング・コモンズへ

- * 図書館＝「図書」の「館」ではない。また「読み物」を提供するだけの場ではない。
- * これからの学校図書館の機能
- * (1)リサーチ機能(電子資料も含めて情報にアクセス)
- * (2)グループワーク機能(異なる考えを聴き、仲間と成果物を作る)
- * (3)プレゼンテーション機能(学習成果物を発信するスキルを養う)
- * (4)学習ツール機能(ライティングや情報検索方法)
- * (5)映像作成・編集機能
- * (6)展示機能(学習活動の成果)

関西学院千里国際キャンパス 図書館



<http://ss.special-programs.net/?p=893>

関西学院千里国際キャンパス 土曜学校

- * (1)ライブラリーの授業は図書館でおこないます。図書館には、3万冊以上もの年齢に応じた洋書が所蔵されています。
- * (2)授業では、音読、黙読、またリサーチの仕方を学び、本の読み聞かせもおこないます。
- * (3)また、土曜学校で用意している本の中から、貸し出しもおこなっています。ハリーポッターやナルニア物語からマジックツリーハウス、オックスフォードリーディングツリーまでの様々な種類の本を豊富に取り揃えています。
- * (4)授業を通して、読書が好きになるような授業を目指します。

必要なのは知識情報管理システム

- * 根本彰はその著書『理想の図書館とは何か—知の公共性をめぐって』において、次のように米国との相違点を指摘し、日本の公共図書館を批判。
- * 図書館とは、「近代社会に埋め込まれた開放系の知のネットワーク装置である」(p.3)
- * したがって米国では「機能的な組織は合理的な知識情報管理システムをもつことが要請され」(p.8)、第2次世界大戦下においても書籍・雑誌・新聞・地図・レポートなどの印刷物を組織の構成員が共有する文献管理システムと、文書を時間軸に沿って管理する文書管理システムによって知識を管理し、再利用が可能になるように整備されることになる。
- * ところが日本では「みずからの社会組織にきわめて閉鎖的な知識情報管理の仕組み」(p.4)を築き、機能不全を起こしているという。



*4. デジタル・ネット
ワーク社会と学校
図書館

デジタル・ネットワーク社会と 学校図書館

- * (1) 電子書籍の利活用—必要な資料の電子化に取り組む
- * (2) 資料は本だけではない—デジタル・アーカイブの活用
- * (3) 利用者の主体的な学びを創り出す学校図書館

結論

- * (1)これまでの紙を主体とした知識情報基盤は現在、大きな転換点を迎えつつあり、今日では電子資料を活用した新たな図書館サービスが求められている。
- * (2)実際の情報行動の変化に対応すべく、小・中・高でのデジタルデバイスの活用が進展しつつある。
- * (2)図書、逐次刊行物、視聴覚資料、パッケージ系電子資料、データベースに次いで「電子書籍」の導入問題があるのではなく、電子出版はこれまでの知識情報基盤のインフラを変えるという認識がまず必要である。
- * (3)当然のことながら、学校図書館においてもこの変化に対応しなければ図書館は「正倉院」となり、司書は倉庫の番人となるだろう。